

75 9

No. 40

昭和50年9月1日発行
発行 横越村役場

おまごし

広報

おもな内容

1. ガン 征臣月間 (P1)
 2. 印鑑証明方式の改正 (P2)
 3. 9月15日 桑原さんら 長寿の祝い (P3)
 4. 神田さん 中国から32年ぶりに里帰り (P3)
 5. 本村で 県下俳句大会 (P4)
 6. 横越下地区 明るい家庭 (P4)
- づくり推進組織でできる

動くシリーズ⑧



いもま、花きり
行く、行く、行く
坪谷新雨

早期発見が第一

進んで定期検診を

昨年のガン死亡者は、全国 県九三三、本村二二二、で十三万三、七〇二人、新潟 一割、全国的にみて新潟県は県では三、五三七人、本村で、ガンの多発県となつてしまふは十五人、全死亡に占める割合、本村の場合には更に高い割合合は、全国十八・八割、新潟 を示す多くの方々が尊い生命をガンで失つていきます。

一般的に男女とも胃ガンが最も多く、次いで男は肺ガン、女は子宮ガン、卵巣の順です。ガンによる死亡は、年令的にみると35才から50才代に多く、社会的にも家庭的にも大黒柱となつていながら、社会問題として緊急の大きな課題を投げかけています。

一方、医学技術の発展はめざましく、ガンの早期発見、早期治療を大きく前進させています。

又、最近では公害からくるガンの発病等がクローズアップされ、六個クローズによる肺ガン発生等が政治問題化しており、国民のガンに対する関心を高めさせています。



“ガン” 征臣月間
9月1日~9月30日

ガンの危険信号8か条

つぎのような症状があったら、直ちに専門医に診てもらいましょう。

1. 胃 ……具合がわるく食欲がなく、好みが変わったりしないか。
2. 子 宮 ……おりものや不正出血はないか。
3. 乳 房 ……なかにシヨリはないか。
4. 食 道 ……のみこむとき、つかえることはないか。
5. 大腸・直腸 ……便に血や粘液がまじったりしないか。
6. 肺・喉 頭 ……咳が続いたり、痰に血がまじったり、声がかすれたりしないか。
7. 皮 膚・舌 ……治りにくい潰瘍はないか。
8. 腎臓・膀胱 ……尿の出がわるかったり、血前立線がまじったりしないか。

ガンは、まだその発生原因が明らかでないため、決め手となる予防方法が見いだされていません。とはいっても、ガンは自覚症状がありません。しかし、最近の医学の進歩から不治といわれたガンも、早く見つけさえすればよく治るようになってきました。したがって今のところ早期にガンを発見し、早期治療によって健康をとりもどすことが最善の方法ですので、健康診断を定期的に行うことが一番重要なことです。

ガンは人体のあらゆるところに発生します。発生した部位によって症状も異なります。ガンの危険信号は上のおしりです。少しでも早い時期にガンを見出す方法の参考にして予防に努めて下さい。



「芋もって」むべからずとまず試みてはばらくはビースの種を吐きつ

歌人 辻 藤 隆 先生 九十才の歌を拝見し、二十数年前先生の短歌を話をして非常に感動を受けた思い出があります。その時頂いた色紙に「迷ひ出し小六を鹿に叱りたり素然として日の暮れゆく」とありました。多岐方びるる老後の心境が感じられるのですが、前歌は九十才にしてなおお心な心気がうかがわれます。

昭和五十年 大宅 庄一 賞を受けた吉野 せい さんは、七十五才です。七十五才になるお婆さんの愚痴としての生涯の回顧を記録したものです。その作品を読んでみて、そのみずみずしい勁筆に驚嘆しました。壮者も及ばない文章です。

高令者の数が増加してやがて日本は三〇割の高令者で占められる高令者社会になると言われています。横越村でも昭和五十年四月の調べで六〇才以上、三四二名、六五才以上九五二名の方々がいられます。全人口の約一六割に当ります。もう十年たてばこの倍以上に増加するだろうという推定です。そういう高令者社会では、社会福祉も漸次充実してきて、高令者の方々の生活は保障され安心して生活できるよう体制がとられていかなければならないのは勿論でしょう。が、一層高令者の方々の自身をどういふ態度で身をまかしてゆくのうらやまをまかせただけでなく、身体的な衰えは辛むを得ないとして高令者社会における生き方を考えていく必要があるのではないのでしょうか。九月十五日 藤野の二先生のようによろしく。益々盛んな精神で、培われてきた生きがいのある生涯が大望のめりです。九月十五日 藤野の二先生の方々全員が健康でお元気に過ごされるようお祈りします。